



独立行政法人国立病院機構

呉医療センター 中国がんセンター

広島県呉市青山町3-1 TEL 0823-22-3111 (夜間・休日 TEL 23-1020)

<http://www.kure-nh.go.jp>

発行責任者 呉医療センター院長 上池 渉



独立行政法人国立病院機構呉医療センターの理念

- 患者さまに信頼される質の高い医療をめざします。
- 患者さまの生命と人権を尊重します。
- 職員が誇りをもって働ける病院をめざします。
- 自立した健全な運営をめざします。

CONTENTS

就任挨拶.....	2	入学して思うこと.....	16
職員紹介.....	6	「志和 智恵理さん harmony クロスステッチ展」.....	17
ひざの痛みについて.....	10	ご意見箱.....	18
『安全で安心ながん治療の提供を目指して』		「第2回呉国際医療フォーラム(K-INT)」のお知らせ ...	19
～薬剤師の役割～.....	12	「メディカルフェスタ2009」並びに「第15回 国立病院機構	
お母さん！ぼく、がんばるよ！		呉医療センター・中国がんセンター がん講演会」のお知らせ ...	19
～手術を受ける子どもたちの「がんばる力」を応援したい～ ...	13	「平成21年度末期医療患者のQOL推進事業講習会」のお知らせ ...	19
「看護の日記念行事」を実施して.....	14	車椅子利用専用駐車場について.....	20
職場紹介 5A病棟.....	15	編集後記.....	20

就任挨拶



～院長就任のごあいさつ～

院長 上 池 渉

佐治文隆先生の後任として4月1日付で新院長に就任しました。どうぞ宜しく願い致します。大阪から2003年に副院長として当院に着任して5年半が経過しましたが、まだ大阪弁が抜けません。ご容赦ください。しかし、呉の土地、人々が大好きで、休みの日には愛犬（ユンゲといいます）を連れて周辺のたいていの所には行っています。

私の好きな言葉は“和氣満堂”です。和やかな空気が空間に満ちている。この言葉は私が研修医の時の先生、曲直部寿夫という阪大教授から国立循環器病センター総長になられた方の教えです。コミュニケーションが医療の安全にとって重要です。若い看護師が上の看護師の、若いドクターが上のドクターの間違いを遠慮してか、あるいはもし自分の指摘が間違っていたら怒られると感じて言い出せなかったりすることがあります。それには下の者が上の者に気軽に声掛けができるそんな雰囲気、下の者の指摘がもし違っていても“注意してくれてありがとう。でもこれで正しいのだよ”と答える。そんな雰囲気にしたいと思うのです。和氣満堂とは皆でなあなあで居ようというのではなく、その人が自分のために言ってくれていると思える文化にしたいと思っています。上下を超えて、職種を超えて、科を超えて、**真のチーム医療**を目指したいと思っています。患者さんや家族の皆さんとの関係も同じだと感じています。

当院は“患者さんに信頼される質の高い医療をめざす”を基本理念として歩んできました。独立行政法人化後5年を超え、一步一步前進してきましたがまだまだ十分ではありません。さらに一層の努力が必要です。

1) 地域医療への貢献

当院はがん診療連携拠点病院として、昨年7月に呉

医療圏の5大公的病院、医師会によびかけ医療関係者が一丸となり“がん”に取り組む組織を結成しました（**呉がんチーム医療研究会**）。また、分科会として5大がん（胃、大腸、肺、肝、乳腺）と緩和ケアの地域連携パスを策定することとしました。当院は中国がんセンターでもあり、広島県の市町村住民に対してがん講演会を行っています。昭和43年以来実に1500回を超えました。また、昨年から“メディカルフェスタ2008”と銘打ち病院祭を行いました。“**みんなで守る健康と医療**”をテーマに救急医療、緩和ケア、産科、小児科などの問題点を取りあげ、医療は住民、医療関係者がみんなで一緒に守っていく必要があることをアピールしました。今年は“**手をつなごう 地域の医療**”をテーマに9月27日に開催しますのでぜひご参加下さい。

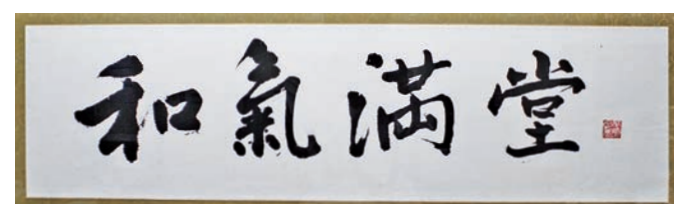
2) 呉医療研修センターの創設

20年4月をもって閉校となった附属リハビリテーション学院の校舎を改装し、模擬病棟や各種シミュレーション装置を設置し、研修医やレジデントなどの医師をはじめ、各職種の**スキルアップ・ラボ**とします。当院のみでなく機構病院、近隣病院、近隣看護学校、近隣大学看護学部・薬学部の方達にも利用して頂き、地域医療協力にも貢献できたらと思います。

3) 国際化

昨年、当院で第一回呉国際医療フォーラムを開催しました。タイ、シンガポール、インドネシアの医療人と呉地区、広島大学の医療人が集い、“**血管外科**”をテーマに発表、討論しました。21年度は“**周産期**”をテーマとして7月24-26日に開催します。また、タイの国立ラジャビッチ病院との姉妹病院化の調印を2月に行い、定期的に医師と看護師の交流をします。また、今年度インドネシアから2名の看護師希望者を受け入れます。機構の海外留学制度の利用と合わせ、国際感覚の高揚になればと思います。呉を国際都市にするための一助になればと思っています。

医療崩壊が叫ばれる中、患者さんとともに呉の医療を守っていきたい。



～副院長就任のごあいさつ～

副院長 杉 田 孝

広島東洋カープは4月から新広島市民球場（マツダ・ズーム・ズーム・スタジアム）で今シーズンを迎えました。私も4月1日から副院長を拝命し、新たな気持ちで出発しています。

昨年11月に統括診療部長として赴任以来、旧海軍病院時代からの歴史と伝統を引き継ぎ、国立病院機構中四国ブロックの基幹病院として、また呉医療圏の中核病院としての存在感を示し、重要な役割を担った本院の位置づけを認識してきたところです。引き続き今後も医療の質

を担保し、地域医療のニーズに応え、信頼される病院であり続けるよう努力いたします。

病院はチームワークで成り立っています。われらが新チームに5月からは森脇副院長、川本統括診療部長が加わり、病院の体制が整いました。上池院長の下、私は副院長の「副」をHappyの「福」と考え、患者の皆さんのため、病院職員のため、呉地区医療のため、周りがHappyになれるよう専心精励する所存です。



～副院長就任のごあいさつ～

副院長 森 脇 克 行

この度、上池院長から、5月1日付で副院長を拝命いたしました。一言ご挨拶申し上げます。

国立病院機構組織規定4節、第50条によると、「副院長は、院長の命を受けて病院の事務を整理する」とあります。現在、杉田先生が、副院長職に課せられた病院の重要な事務整理の多くを行っておられますので、私は麻酔とペインクリニックの臨床を続けさせていただきながら、副院長としての任務を遂行させていただきます。

私は、麻酔科医として、麻酔とペインクリニックの臨床に30年間携わってきました。振り返ってみると、この間、医学・医療は大きく進歩しました。1990年代には、例えば手術室の中では、内視鏡手術が急速に取り入れられるようになりました。分子生物学の進歩によって治療薬の開発が急速に進みました。そして、医学の広い分野でEBMの考え方が普及し、エビデンスに基づいた標準医療が広く行われるようになりました。IT（information technology）の進歩は、医療技術や医療システムに革新的な影響を与え続けています。

医学・医療は今後も急速に進歩すると思われます。進

歩する医療のなかで、どうすれば、私たち医療提供者（ヘルスケアプロバイダー）が、早く確実に新しい知識や技術を身につけることができるか、それは病院の医療にとどまらず、医療サービス全般における大きな課題であると思います。また医療安全の観点からも、標準化された心肺蘇生法や、緊急事態に対する対処法などの普及徹底がとても重要な課題であると思われます。近年、“スキルスラボ”におけるシミュレーション教育、新しい教育器材や教育システムも研究開発され、普及するようになりました。

今回、上池院長から命じられた副院長としての私の任務の1つは、リハビリテーション学院跡に設置が計画されている、医療研修センターの立ち上げとマネジメントです。新人ばかりでなく、ベテランスタッフも自己研鑽のために研修を受ける機会が多くなると思います。当院に新しくできるこのセンターで、多くの人が、楽しく、気持ちよく、効率的で質の高い研修ができるよう研修センターの環境整備に力を尽くしたいと思います。みなさまのご協力をよろしくお願い致します。

就任挨拶



～統括診療部長就任のごあいさつ～

統括診療部長 川 本 俊 治

5月1日付で統括診療部長を拝命しました。

私は平成元年より当院で勤務しておりますので、ご存知の方もおられると思います。

自己紹介に代えて、医療崩壊の文字が新聞紙上で躍る中で呉医療圏における当院の役割をお伝えしたいと思います。

「点の医療」から「面の医療」へ

当院は三次救命救急センター、がん地域医療支援病院の認定を受けており、呉地域の中核医療施設として機能することが求められています。ですが、呉医療圏でも産科の集約化など医師不足が現実問題となって迫って来ております。

この環境下では、退院後も病院での外来に通院するという従来の病院完結型の医療は維持できなくなりました。そのため当院は急性期医療を担当し、退院時に慢性期の治療方針を決めて紹介状に記載する、「かかりつけ医」は紹介状を受けて治療の継続を行うという、医療の分担が避けられない時代となりました。今後、病院完結型医療から地域全体で医療を実施する、「点の医療」から「面の医療」の時代となりました。

二人主治医制と「地域連携パス」

この急性期病院と「かかりつけ医」との連携に欠かせないものが「地域連携パス」です。「かかりつけ医」は患者さんの通常の診察と血液検査・処方など日常的な診療を担当します。一方、呉医療センターの医師は、「かかりつけ医」から報告された病状や経過、検査結果などを参考にして、最新の医療機器を用いた精密検査や専門的な診療を行います。必要に応じて入院・手術治療を行

います。

このように「かかりつけ医」と「急性期病院」がタッグを組んで、患者さんの医療を「二人主治医制」で行うことになります。急性心筋梗塞では救急隊と連携して、急変時の素早い対応が可能となっています。「かかりつけ医」と「急性期病院医師」とが患者さんの病気の情報を共有するために使用するものが「地域連携パス」です(図1)。

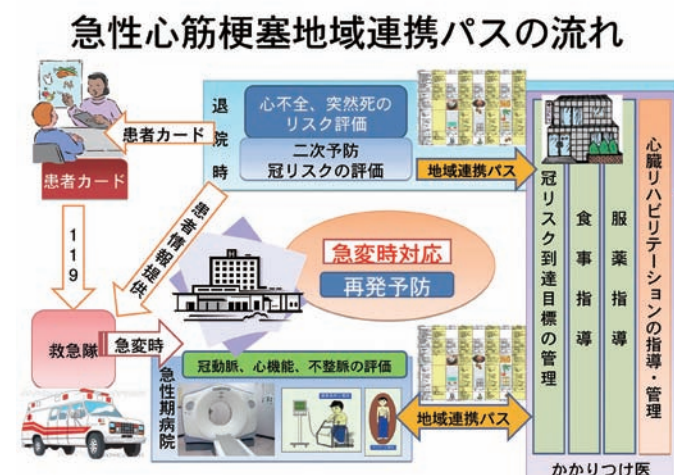


図1

呉地域の先進性

呉地域の医師会を通じた「地域連携パス」の取り組みは全国的にも先駆的と評価されています。さらに呉地域の連携パスは共通仕様となっておりますので、どこの急性期病院で治療をされてもその治療経過が解るようになっています。

今後も呉地域では、急性期病院と「かかりつけ医」の連合体で、呉地域の医療を守っていきたいと考えておりますので、患者さんのご理解とご協力をお願いします。



～内科系診療部長就任のごあいさつ～

内科系診療部長 中 野 喜 久 雄

平成21年5月1日付で内科系診療部長に就任致しました。内科系の全診療科にわたる職であり、その職責の重さに身が引き締まる思いですが、患者の皆様を中心にした質の高い安全な医療、を提供できるよう全力を尽くしたいと思っております。

患者を中心にした質の高い医療を提供することが以前から強く求められています。そのため最近では科学的根拠に基づいたガイドラインに従って診療するようになってきましたが、その前に患者の皆様や御家族が納得される説明、いわゆるインフォームドコンセントが必要です。しかし、このインフォームドコンセントの徹底は難しく、実際、医師が十分に行ったと思っても患者の皆様や御家族があまり理解や納得をされていない場合があります。そうならないように当院では、出来るだけ実際のCT写真やパンフレットなどをお見せしたり、説明用紙に模式図や医学用語をわかりやすい語句に書き換えて示し説明することに務めています。

ただここで私たちからの御願いです。説明の際に時々、患者さんから「お医者さんに全てをお任せします」という言葉をお聞きます。確かに医者説明が不十分で、理解できないことが多いと思います。その際に患者の皆様ご自身が医療の中心であることを自覚され、遠慮なく質問して頂きたいと思います。そうすることで患者の皆様と私たちが一緒になって、病気に立ち向かうための最善の策を立てることができると思います。

次にいくら質の高い医療であっても、安全な医療、つまりミスのない医療でなければいけません。これはどこの病院でも掲げている目標です。しかし医療の先駆的なアメリカでも年間9万8000人が医療ミスで死亡しているという衝撃的な報道があり、医療ミスを無くすことは難しく、その代わりミスを最小限に食い止めることが目標だと思います。それを特に意識しなければならないのは、短時間で安全な医療行為を求められる救急医療の現場です。当院は1970年5月に救急救命センターを設置して以来、呉周辺の救急医療を一手に担ってきました。最近、救急で来られる患者の皆様は合併症が多く、また最新の医学情報も専門化しているため、救急処置は一つの診療科では対応ができなくなっています。ただ幸いな事に当院では各診療科、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床工学士等がお互い即座に連携を取れる体制を整えており、検査と処置が安全かつ迅速に行える環境となっています。さらに当院では2005年から電子カルテを導入し、職員誰もが医療行為の情報を共有して、安全性の確認と監視が出来るシステムを作っています。

ただ当院の目安箱や満足度調査結果などを見ますと、患者の皆様や御家族に対して未だ十分でないように感じます。これまで以上に御意見をお寄せ頂き、それを基に各部門が反省し、より一層患者の皆様を中心にした質の高い安全な医療を提供できるように努力いたしますので宜しくお願いします。

職員紹介

呼吸器外科科長 山下 芳 典



〔資格〕
呼吸器外科専門医
日本呼吸器外科学会指導医
日本胸部外科学会指導医
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
日本消化器病学会専門医
日本乳癌学会認定医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医
日本がん治療認定機構暫定教育医
〔学歴〕
広島大学医学部 昭和57年卒

出身地 広島県
趣味 釣り、スキー、旅行

今後の抱負

山に囲まれた広島市立安佐市民病院から、島々へアクセスのよい海のそばの本院へ赴任しました。広島から美しい瀬戸内海に癒されながら居眠りすることを楽しみにバス通勤しています。

呼吸器外科を切り盛りする責任ある立場であることを自覚し、内視鏡手術の分野、そして治験や臨床試験の参加に力を注ぐ所存です。特に早期の肺がんに対す胸腔鏡下肺葉切除術（VATS lobectomy）は、数cmの傷のもと根治切除可能な体に優しい手術で、術後の胸痛の軽減や入院期間の短縮に寄与します。また、栄養管理は患者の転帰を左右する基本的治療であることを念頭に、栄養サポートチーム（NST）の回診に参加しています。

長い公務員生活の中で年を拾いましたが、失いがちな医療に対する熱い気持ちを忘れず、チーム医療を大切に皆様とともに働きたいと存じます。

放射線科科長（診断） 豊 田 尚 之



〔資格〕
日本医学放射線学会専門医
日本IVR学会専門医
マンモグラフィー認定医
〔学歴〕
広島大学医学部 平成2年卒
学位取得 平成14年

今後の抱負

私は地元呉出身ですが、広島大学入学後は広島での生活が中心になっていたため、呉医療センターに勤務する

ことになるとは、つい数ヶ月前まではほとんど想像していませんでした。しかし文字通り自分の生まれたところで働くことができるのも何かの縁と思います。仕事は画像診断とIVR（カテーテル治療など）が専門ですが、当院は規模の大きさや疾患の多様さから、要求される内容も多岐にわたっており、これまで自分が医師として20年近い間に経験した一見無駄に思えた仕事も、ここでは様々な場面で役立っていることを実感します。今はスタッフが3名と十分な態勢とは言えませんが、放射線科としての役割はしっかり果たしていく所存です。宜しくお願い致します。

内科科長 河 村 智 一



〔資格〕
日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内分泌学会専門医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
〔学歴〕
広島大学医学部 平成3年卒
広島大学大学院 医学系研究科博士課程 平成12年修了

出身地 山口県
趣味 スキー、水泳、ガーデニング

今後の抱負

このたび9年間勤務した広島市立広島市民病院より呉医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科へ赴任させていただきました。

大学に帰局する前の平成7年に呉市医師会病院で1年間勤務したことがあり、また大学に在籍した4年間も、週に1度は呉で地域医療をしていた関係で、呉医療センターへの赴任は非常に光栄です。

当院は総合病院であり、重度の合併症を併発した糖尿病患者を診療していく上で非常に恵まれた環境にあります。ますます増え続ける糖尿病に対し、病診連携もスムーズに行い、呉の地域医療に貢献させていただくつもりです。

また、甲状腺や副腎疾患等の内分泌疾患に対してもしっかり診療させていただくつもりです。

今後ともよろしくお願い致します。

整形外科医長 安 本 正 徳



〔資格〕
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会運動リハビリテーション医
日本整形外科学会認定リウマチ医
〔学歴〕
広島大学医学部 平成3年卒

出身地 広島県
趣味 ゴルフ、映画鑑賞

今後の抱負

呉生まれの広島育ちなのですが、これまでの医師人生半分以上にあたる10年間は四国愛媛県内の病院に勤務しており、今回も松山赤十字病院より赴任いたしました。中学、高校は情熱の全てを野球に費やし、大学時代はラグビーに明け暮れ、現在はゴルフのシングル挑戦中ですが一向に上達せず悩んでいます。

スポーツ好きも関連し、整形外科の領域でも特に膝関節外科を専門としております。最小侵襲手術である関節鏡視下手術による靱帯再建術、半月板切除術や、人工膝関節置換術、高位脛骨骨切り術など、これまで執刀した1000例の経験を生かし、呉地域の医療充実に少しでも貢献できればと考えております。ひざが痛い、くずれる、ひっかかる等の症状や気になることがある場合は是非お気軽にご相談いただければ幸いです。

眼科科長 地 庵 浩 司



〔資格〕
日本眼科学会専門医
〔学歴〕
広島大学医学部 平成8年卒

出身地 広島
今後の抱負

私は、生まれも育ちも広島で、広島大学を卒業した後、平成8年に広島大学眼科学教室に入局致しました。その後、広島大学の関連病院を転々とした後、平成21年4月

に呉医療センターに参りました。呉の病院には、研修医時代に半年だけ勤務したことがありますので、約12年ぶりに呉に戻って参りました。

眼科に関しましては、主に緑内障の診療に興味をもっておりましたが、できるだけ幅広い分野の診療を行ってきたつもりです。呉医療センターには、網膜・硝子体疾患の検査・手術機器が充実しておりますので、今後は徐々に網膜・硝子体疾患の方面にも診療の幅を拡げていきたいと考えております。

何かと至らない点があるかと思いますが、今後とも御指導のほど宜しくお願い致します。

皮膚科科長 真 田 聖 子



〔資格〕
日本皮膚科学会専門医
〔学歴〕
広島大学医学部 平成10年卒

出身地 広島県
趣味 舞台・映画鑑賞、フィットネス
今後の抱負

私は元々呉で生まれ育ち、呉宮原高等学校を卒業後、

広島大学医学部へ進学いたしました。平成10年に卒業し、その後は広島大学病院、県立広島病院、広島西医療センターで皮膚科を勤めさせていただき、およそ10年振りに呉へ戻って参りました。

若輩者ながら皮膚科科長という立場を任命いただき、責任の重さと己の浅学さに頭を悩ましながら、高校時代に駆け抜けた美術館通りを一步一步踏みしめています。

ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、皆様によりよい医療をご提供できるよう努力し続けますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

職員紹介

形成外科科長 杉 山 成 史



〔資格〕
日本形成外科学会専門医
〔学歴〕
金沢大学医学部 平成13年卒

出身地 広島
趣味 テニス スキー
今後の抱負

この4月に岡山大学より異動して参りました。岡山大学では頭頸部癌や四肢悪性腫瘍切除後の再建をはじめとし、リンパ浮腫、切断指、性同一性障害などの手術を行っ

ておりました。

呉市はもとより広島市周辺地域には形成外科が少なく、呉医療センターの形成外科が果たすべき役割は非常に重要であると考えております。がんセンターでもありますので、癌切除後の再建については特に力を入れて参りたいと思います。また、リンパ浮腫の治療についても、圧迫やマッサージなどの保存的治療とリンパ管吻合術を組み合わせた総合的な治療の出来る体制を整えたいと考えております。

ひとりひとりの患者さんに最善の医療を提供することを目指し、みなさまから信頼されるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副学校長 東 條 美 春



出身地 香川県
趣味 庭の草取り（気分すっきり、実益も兼ねています）
今後の抱負

呉看護学校での取り組みとして以下の4点を考えています。

1. 呉看護学校学生の成績優秀、スポーツ万能のよき伝統を維持すること。

2. 優秀な学生を確保すること。
3. 大型校築16年目を迎えた建物メンテナンスを計画的に実施していくこと。
4. 呉看護学校の存在を院内外に積極的にアピールしていくこと。

これらはまだ漠然とした思いであり具体策はこれからですが、一歩でも前進できるよう行動していきたいと思っています。

また、学生との年齢は開く一方ですが、積極的に学生の輪に入り一緒に学校生活を楽しみたいと思っています。私的には呉を拠点に中国地方の名所旧跡を堪能したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

7 A病棟 看護師長 稲 垣 恵 子



出身地 広島県
趣味 スポーツ観戦・旅行

今後の抱負

本年4月に国立療養所邑久光明園より転勤し、7 A病棟で勤務しております。7 A病棟は泌尿器・呼吸器外科・皮膚科・外科の混合病棟で、慣れない環境や業務にご指導いただきながら奮闘している毎日です。患者様が入院中安心して治療を受けることができ、退院後の社会復帰や生活に不安がないよう、地域連携室や医師と連携し早期に退院支援を行っていきたくと思っています。また、スタッフが健康で日々看護にやりがいを感じることができ、知識・技術が共に成長できるよう一緒に頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

9 B病棟 看護師長 小 杉 恭 子



出身地 福岡県
趣味 スポーツ観戦・編み物

今後の抱負

4月より9 B病棟の新任看護師長として着任いたしました。9 B病棟は内科系の混合病棟です。疾患や治療は様々ですが、退院後も自宅での健康管理を必要とされる方が多くおられます。そのため、退院後を想定した入院生活を送れるよう患者と話し合い、個々に合わせた情報提供など、早期からの退院支援を目指したいと思っています。また、医師や薬剤師との情報共有や、地域連携室との退院支援カンファレンスの充実など、よりよいチームアプローチができるよう取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

旬の味覚 ～かぼちゃ～



黒皮栗かぼちゃ
西洋かぼちゃの一種で、市場の主流。扁円形で表面に少し凸凹がある。洋風の揚げ物などに向く。



黒皮かぼちゃ
市場からほとんど消えた日本かぼちゃの一種。形は腰高、皮は黒緑色で、縦に溝がある。ねっとりとし、甘みが少ない。



ユニークなそうめんかぼちゃ
ペボかぼちゃの1種。完熟果を3センチほどの厚さに切ってゆで、冷水中で果肉を手で引き出すと、糸状にほぐれます。

〈かぼちゃの特徴〉

かぼちゃは、カンボジアから渡来したので「かぼちゃ」と名前がついたといわれています。日本で栽培されているのは日本かぼちゃ、西洋かぼちゃ、ペボかぼちゃの3種類。食生活の洋風化とともに日本かぼちゃは姿を消し、現在は、調理法の多い西洋かぼちゃ（別名栗かぼちゃ）が主流になりました。

〈かぼちゃの旬〉

西洋かぼちゃの旬は7～9月です。

〈かぼちゃの栄養価〉

ビタミンA、C、Eなどのビタミン類、ミネラル、食物繊維などが豊富に含まれています。



ひざの痛みについて

整形外科医長 安本正徳

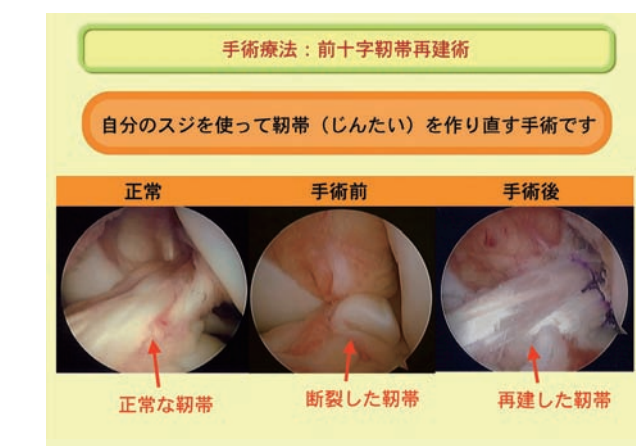
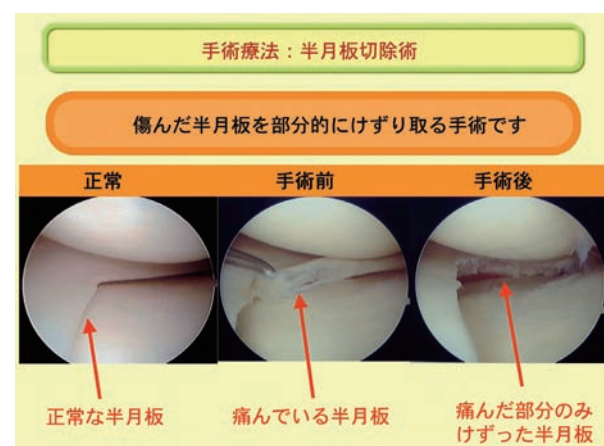
ひざの痛みの原因

ひざの痛みといってもその原因により大きく二つの病態に分けられます。それは瞬間的な大きな力による損傷いわゆるけが（外傷）と、頻回に繰り返される力による損傷いわゆる病気です。一般的に若年者におけるひざ痛はスポーツ等による外傷が多く、年配の方のひざ痛は年齢的变化も含めた病気が多くみられます。今回はスポーツ損傷といわれる病気にわけてひざの痛みについてお話ししたいと思います。

ひざのスポーツ損傷

ひざのスポーツ損傷の種類としては捻挫、靱帯損傷、半月板損傷等があります。ほとんどのけがは何かにつかったわけではなく自分自身でひざを捻って受傷し非接触型損傷と言われています。バスケットやバレーボールのジャンプ着地の際、あるいはサッカーなどで走っていて急に止まったり方向転換をした際にひざを痛めるのが典型的です。そういった際よく損傷されるのが前十字靱帯や半月板と言われるひざの安定性に関わっている重要な組織です。これらの組織を損傷するとまずひざが腫れ、痛みが出ますが安静にしているとその後徐々に痛みは軽減し治ったかのように感じます。しかしながらひざの安定性が失われていますから思わぬ時ひざがガクッと崩れたり、ひざの中で何かが外れたりあるいは引っかかっ

たりするような症状と痛みが出現します。こういった症状が出現するとスポーツ活動が困難になることは勿論ですが、この状態を長く放置しますと後に述べます変形性関節症に移行することが判明していますので、きちんと治療することが大切です。靱帯、半月板という組織は自然治癒力（自分で治ろうとする力）が弱いので治療としては手術をして靱帯を作り直したり半月板を縫ったり削ったりすることが必要となります。当院においてはほとんどの症例において関節鏡というひざ関節用の内視鏡を使用してそういった靱帯や半月板の手術加療が可能です。小さい傷で、術後の回復も早く患者さんへの負担を少なくすることができ、術後のリハビリテーションにもよりますが、ほぼ100%けがをする前のスポーツ復帰が可能となります。

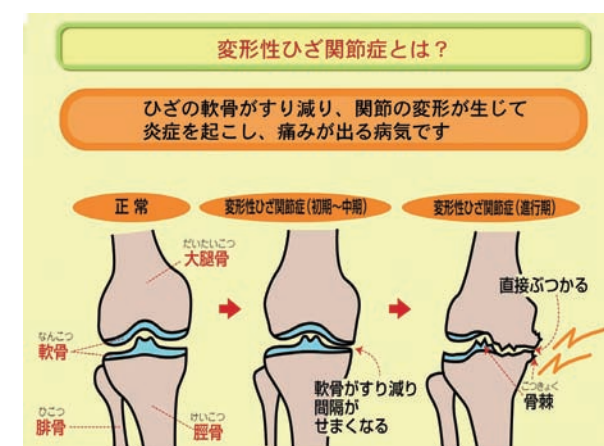


ひざの病気

ひざの病気として最もよく認められるのが、変形性膝関節症という病気です。変形性膝関節症とはその名の通

りひざが変形していくのですが、多かれ少なかれ年齢を取ると全ての人に出てくるので病気と言えるかどうか難しい所があります。同じ年齢でも体質、ひざの使い方、

歩んだ人生などにより変形の非常に強い人とそうでない人がいるのもこの病気の特徴です。簡単に言いますとひざの関節表面にある軟骨がすり減り、関節の変形が生じて炎症を起こし痛みが起る病気です。典型的な症状を挙げますと、①がに股で、ひざの内側が立ったり座ったりする時に痛みがある。②歩き始めが痛いしがしばらく歩いていると痛みはある程度楽になる。③階段や坂が辛いが特に下りが難しい。④ひざの曲げ伸ばしが辛くなり、ひざが腫れている（水がたまっている）等があります。治療は変形の程度や症状によって異なりますが、基本的治療法として大腿四頭筋訓練の有効性が証明されています。これは仰向けで横になりひざを伸ばしたまま、かかとを約10～20cmほど10秒間床からあげてひざの前の筋肉を鍛える方法です。回数としては10回を目安に朝昼晩に行えばよいでしょう。この訓練を行うとひざが安定化し痛みが軽減してくるので、ひざ痛のすべての人がまず



ひざが痛い、ひざが腫れている、ひざが崩れる、ひざの中で音がする、何かひっかかるなどの症状はひざの中で何か障害が起こっている可能性があります。症状をいわずに放置しますと取り返しのつかない状態になる場合もあります。ひざだけでなくど

おこなうべきでしょう。整形外科ではこの訓練に加え痛みの具合によって装具や薬、関節内注射などを行います。これまで軟骨の栄養になるヒアルロン酸という薬を関節の中に注射する方法の有効性は証明されていますが、現時点でヒアルロン酸やグルコサミン、コンドロイチンなどの健康食品の摂取による有効性は残念ながらまだ証明されていないようです。こういった治療でも痛みがとれない場合は手術が必要となる場合があります。ひざのほねを切って向きを変えてがに股を直し、体重のかかる方向を変える方法（高位脛骨骨切り術）やひざのほねの表面を削って正常ひざの形に作られた金属をはめ込む方法（人工膝関節置換術）などがよく行われる手術で、痛みを取り除く点ではどちらの手術も大変効果があります。ひざの状態だけでなく患者さんの希望なども考慮し、症例毎に最適の治療法を選択することが大事だと思われます。



の病気もそうですが早期発見、早期治療が大切です。当センター整形外科では火曜日に膝関節専門外来を行っておりますので、気になる事がございましたらお気軽にご相談いただければ幸いです。

『安全で安心ながん治療の提供を目指して』

～薬剤師の役割～

薬剤科 がん専門薬剤師 副薬剤科長 小川 喜通

呉医療センターは、中国がんセンターとして、また広島県の地域がん診療連携拠点病院として、質の高いがん治療を積極的に提供しています。われわれ薬剤師もがん治療を患者さんがより安全で安心して受けられるよう医療チームの一員として取り組んでいます。

がんの薬物治療は、日々進歩しておりいろいろな薬剤を組み合わせで行われる治療が多くあります。それらの治療が、患者さんにとって最適な治療方法であるか、使用する薬剤の量に問題がないか、重篤な副作用の発現の心配がないか、適切なスケジュールに沿って行われているか、等を薬剤師として厳しくチェックしています。

これらの管理には、専門的な知識が必要とされており、がん診療連携拠点病院の認定要件にも、がん薬物療法に精通した薬剤師の配置が規定されています。当院の薬剤部門においては、がん治療に専門的な知識を有した薬剤師として、がん薬物療法認定薬剤師1名と、専門的な知識を有し、さらにスタッフに対する教育的役割を担う、がん専門薬剤師1名を配置し、スタッフ一同、質の高い医療の提供が行えるよう努めています。

注射薬の治療においては、患者さんが安心して治療が受けられるように、休日・夜間を問わず治療に使用する注射薬剤の調製を薬剤科に設置されている無菌室にて行い供給をしています。また、われわれ薬剤師は、できる限り患者さんのところへ行き、抗がん剤の作用、臨床成績、投与量、作用機序、治療時に起こりうる副作用、生活上での注意事項等について、医師の説明のサポート役として説明をさせて頂いています。

現在、多くの抗がん剤治療では、副作用の心配がない治療を行うことはできず、患者さんはつらい思いを余儀なくされることが多くあります。私たちは、治療中に起こるべき副作用への迅速な対応を行い、患者さんの不安や苦痛を少しでも和らげることができるよう医師、看護師と連携して取り組み、さらにお薬に関わる問題だけではなく、患者さんの治療に対しての不安や、治療後の再発や転移についての不安を理解し、患者さんが病気と向き合い自分らしい生活を送ることができるように取り組んでいます。

医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、栄養士、検査技師、放射線技師、理学療法士などの多くの専門的な立場より患者さん・ご家族の皆さんの不安や心配ごとを少しでも解消できるようスタッフ一同でサポートさせていただきます。

治療上でご心配なこと、詳しくお知りになりたい事などがありましたら、お気軽にわれわれスタッフにお声をお掛け下さい。



無菌室における注射薬の調製



散薬調剤

お母さん！ぼく、がんばるよ！

～手術を受ける子どもたちの『がんばる力』を応援したい～

小児病棟 保育士 山本 光恵

以前、病棟では、手術室へ行く子どもたちの嫌がる泣き声が聞こえていました。また、そんな子どもを見て、一緒に泣いてしまう保護者の方も、少なくありません。

そこで、小児病棟では、子どもの『がんばる力』を後押しし、子どもと保護者の不安を少しでも軽減出来るようにと以下の活動をしています。

【紙芝居】

子どもに分かりやすく入院～退院までの出来事や、過ごし方を伝えます。

【お医者さんごっこ】

麻酔マスクや点滴など本物の医療器具に触れ、麻酔マスクの練習をしたり、痛くないことや頑張るポイントを伝えます。

【スタンプラリー】

入院中、処置など頑張る項目を達成するとスタンプやシールをもらい、前向きに治療を受け、退院のゴールを目指します。

子どもたちは、分かりやすく紙芝居やお医者さんごっこで説明をすることで、本来持っている『がんばる力』を発揮します。

「行ってきます！」とたくましい言葉を残して、手術室へ向かう子ども。

「泣いちゃったけど、魔法の空気（麻酔）、がんばれたよ！」「怖かったけど、泣かないでがんばったの。」と、満足そうな笑顔を見せてくれる子ども。

このように、子どもたちの中には大人が想像する以上に『がんばる力』があることに驚きます。

その『がんばる力』を、最大限に引き出し、頑張った時には、十分に褒める、それが病棟のスタッフや保護者など、私たち周りの大人が出来ることではないかと思います。

退院時には子どもたちが何かしら“心の成長”を果たし、笑顔で帰っていけるように、これからもスタッフ一同、応援していきたいと思っています。



アンパンマンの紙芝居



紙芝居を見る子ども



スタンプを押す子ども



お医者さんごっこをする子ども

「看護の日記念行事」を実施して

平成21年度看護師自治会長 福田 美 裕 希

看護の心を皆様にご理解頂こうと、毎年5月12日はナイチンゲールの生誕にちなんで、「看護の日」と制定されています。看護の日には日本看護協会を中心に、様々な催しが開かれており、当院でも「看護の日記念行事」と「ふれあい看護体験」を行いました。

記念行事としては毎年恒例である、当院看護師のお子さんに描いてもらった「お母さん・お父さんは看護師さん」の似顔絵を玄関ホールに展示しました。また、外来ホールでは、血圧・体脂肪測定、栄養相談やダイエット食品の配布をしました。どのコーナーにも多くの方々に参加して頂き、「看護の日っていうのはどんな日なのか？」と興味を示して下さる方もいらっしゃいました。

また、外来ホールでは、小児病棟看護師と保育士によるハンドベル演奏会を行いました。演者たちは、多忙かつ練習期間が短いといった厳しい状況の中でも、この日のためにしっかり練習を行ってきました。その結果、当日は素晴らしい演奏により、観客の方々に大変喜んで頂く事ができました。

そして、実際の看護にふれる「ふれあい看護体験」には、呉市内の高校生16名に参加して頂きました。看護体験前は、初めての白衣を身にまとい、心なしか皆さん緊張の面持ちで表情が硬くなっておられました。各病棟担当者と共に病棟へ向かう参加者の方々を見送りながら、「大丈夫かな。皆さんしっかり看護体験できるかしら。」と、正直なところ少し心配をしていました。しかし、看護体験を終え戻ってこられた時の其々の表情は、体験前と見

違えるほど明るく、生き生きしていました。後の意見交換会で、其々が病棟での看護体験を通して、看護師が患者さんの癒しとなっていることや、看護することの素晴らしさを実感して頂けたことがよく分かりました。中には、「必ず看護師になり、この病院で働きたい。」という思いを述べてくださる方もいらっしゃいました。そして、そのような参加者の方々の姿を拝見した看護師達は、とても良い刺激を受け、改めて初心に戻り、日々の看護により一層の力を注がなければならないと実感していました。

私達看護師は、日々、患者さんやそのご家族、あるいは看護を行う対象者に実践した看護について「本当にこれで良かったのか」や「最良の看護が提供できているだろうか」など、常に振り返り、意見を交わし、切磋琢磨しています。個々が、自分の実践した看護に甘んじることなく、更によりよい看護が提供できないかと努力しています。そのような日々を送っている中で、最も大きな喜びの一つとして、看護を提供した相手（患者さんやご家族等）の笑顔や暖かい一言があります。これがあるからこそ、どんなに厳しい環境にあっても、患者さんやご家族のために頑張ろうという気持ちになれるのです。そのような思いを一人でも多くの方に知って頂きたく、今後も「看護の日記念行事」としてイベントを開催する予定です。次回も、多くの方々の参加を心よりお待ちしております。



職場紹介

5 A病棟

看護師長

中村 美由樹

5 A病棟はベッド数55床の整形外科病棟です。スタッフは整形外科医師9名、看護師40名看護助手2名です。20歳代看護師が7割を占める病棟で若いパワーで明るく元気に、はつらつと勤務しています。患者様からも「看護師さんがみんなやさしくて、明るい」と言っています。

入院される患者様は10歳代後半から90歳代の方で、主に脊椎・上肢・下肢・膝・大腿骨・手の手術を目的とされた方が入院されます。平成20年度は約900件の手術を行いました。

患者様が安心して安全・安楽に手術を受けていただけるように看護していくことはもちろんのこと、入院中から退院後の生活を含めた支援ができるようにリハビリカンファレンスでは医師・看護師・理学療法士・作業療法士・ソーシャルワーカーと患者様について活発な意見交換を行い1日も早く元の生活に戻るよう総合的に援助を行っています。

私たちは5 A病棟に入院してよかったと笑顔で退院される患者様にはげまされながら日々の看護実践に取り組んでいます。



整形外科疾患別
(平成20年度)

大腿骨骨折	215
下腿・足首の骨折	64
前腕骨折	44
肩・上肢骨折	36
腰椎・骨盤骨折	44
腰部脊椎間狭窄症	36
その他	455



リハビリカンファレンス

入学して思うこと

47回生 代 入 汐 理

私は入学前、寮に入ることや初めて出会う人たちとうまくやっていけるか、また、難しいと聞く看護の勉強に、ついていけるか本当に不安でした。しかし一方では、家を出て、自立することへの憧れもあり、わくわくする気持ちもありました。

神聖な空気の中とり行われた入学式、緊張の中自分の名前が呼ばれ「はい。」と返事をした後、とても清々しい気持ちになりました。自分が新たなスタートラインに立ち、私もこの学校の学生になったのだと実感しました。また頑張ろうという気持ちを強く抱くきっかけにもなりました。

入学後2ヶ月が過ぎ今では友達もできました。また先輩達がいろいろと気にかけてくれ寮生活での不安もなくなりました。しかし寮生活をしたことのない私にとっては、自分の身の回りのことはすべて自分でしなければならないことや、集団生活をする上での種々の規則をまもらなければならないという当たり前のことを当たり前にすることがいかに大変なことか、今まで自分がどれだけ親に甘えていたのかを実感しました。改めて親の存在の大きさを知りました。今もまだ精神的な面で自立できず、帰省したいと思うことがあります。しかし、この三年間を寮生活で頑張れたらきっと、精神的にも自立できるのではないかと思います。この三年間の寮生活を通して大きく成長したいと考えています。

勉強面では、覚えることがあまりに多いので驚きました。勉強についていけるのか不安ですが、今は自分のめざす看護師になるため学んでいるので、とても興味・関

心があり楽しいと感じています。講義ではいろんな専門領域の講師がわかりやすく教えてくださり、とても面白いです。こんなにも授業が楽しいと思ったことが無かったので、本当にこの道に進んで良かったと思っています。また、良い環境で学習できる自分は幸せだなと思います。自分自身の強い思いでこの学校に入学したので、後悔の無い毎日を過ごして必ず看護師なって卒業したいと思います。そのためには日々の努力が大切だと思います。例えば予習復習や授業に積極的に参加するなどです。このように目標を持って生活できると充実した日々を過ごせると思います。

私は性格をいくつか変えたい部分があります。嫌なことから逃げ出すところや物事をすぐに諦めてしまうところ。また、協調性が無いところもです。今後看護師になる上で克服しないといけない部分だと思うので直そうと思います。

これからどんどん実習や勉強が忙しくなってくると思います。そんな時にいつも前向きに取り組める人になれるといいなと思います。また、私の理想の看護師はいつも元気で明るく優しい看護師です。理想ではなく実際にそんな看護師になれるように、いつも笑顔で明るく精神面・健康面をきちんと管理しようと思います。

私の夢は海外で活動できるような看護師になることです。だから海外で通用するような英語力をつけることはもちろん、優秀な看護師になることが大切だと思います。

この三年間今の思いを忘れず、一生懸命頑張って夢を実現させたいと思っています。



「志和 智恵理さん harmony クロスステッチ展」

医療センターボランティアKURE イベントグループ 西岡 利恵

イベントグループでは、年に数回 展示、コンサート、演芸等様々なイベントを通じ 入院患者さんや外来患者さん又お見舞いに来られる方々に少しでも心の癒しを届けることが出来たらと、お手伝いをさせて頂いております。

今春、特別支援学校を卒業された志和智恵理さんの「harmony クロスステッチ展」は3月16日～27日まで行われ、今までの展示の中でも反響が大きく、企画させて頂いた私共も感激しております。

クロスステッチとの出会いは、あるコンサートの会場にディスプレイされていました。細やか細工と色の取り合わせに、ただただ吸い込まれ、この作品を病院内で展示できたら、同じような感動を皆さんにも味わっていただけないのではないかと、進めていきました。

準備段階では色々な大きさの作品があり、悲しいことですが盗難にも配慮しながら展示しました。

展示後 アンケートの中で、より良い方法等ご意見も頂き今後の参考にさせて頂きたいと思います。

アンケートは、80余り寄せていただきました。その一部をご紹介します。

先日は、新聞で国立に展示していると載っていて、今日は拝見しました。1月から毎日主人の見舞いで来ています。毎日憂鬱な気持ちでこの前を通ってきました。ちょっと足を止めて見せて頂きました。とても優しい作品でほっとし…優しい気持ちになりました。絵の具かなにかで書いたようにとても上手に一針一針さしているんですね。今まで毎日下向きにイライラした自分を少しでも変えられるような気がします。ありがとうございました。

とても素晴らしい作品を制作されていて感心しながら楽しい気持ちで拝見させていただきました。

素晴らしい作品に出会えてうれしい

一針一針心を込めて完成されていた作品に心とみます。右手首骨折で何故だか5指が不自由になり手先の仕事が出来難くなりました。年老いて行く身、特に女性としては、淋しく思います。楽しい作品をありがとうございました。

たくさんの素敵な作品を見せていただきました。ありがとうございます。患者さんも手芸が好きな方が多くいらっしゃいます。是非見ていただいて、元気を分けていただこうと思います。(看護師)

又、入院患者さんが何回か見に来てくださり、その間の心の変化をアンケートに書き込んで頂きました。

自閉症の子供さんをもたれているお母さん方の反響も大きく、前に向かっていく勇気を持てたなどうれしいアンケートばかりでした。

今後も、皆様にご協力いただきながら、色々なイベントを行ってまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

今回の展示を開催させていただいた、志和さんファミリー、病院側関係者の皆様に感謝いたします。



ご意見箱

皆様のご意見やご要望をお聞かせいただき、業務の改善に活かし病院の円滑な運営に役立たせていただきます。

【ご意見・ご質問】

新型インフルエンザが流行っていますが、日常生活において予防するにはどのような方法がありますか。

【お答え】

まず、新型インフルエンザについて、厚生労働省よりインフルエンザについては、飛沫感染と接触感染があり、飛沫感染は、感染した人が咳・くしゃみをする（咳・くしゃみの飛沫は空気中で1～2メートル以内）で排泄するウイルスを健康な人が鼻や口から吸い込み感染すること。接触感染は、間接的な接触による感染をいい、例えば、患者のくしゃみなどが付着した手でドアノブなどを触れた後に、そのドアノブを別の人が触れさらにその手で自分の目鼻口を触ることによって感染することとされています。

よって、一般の方が生活の中で実施でき有効と考えられる感染防止策として以下のことが上げられています。

- ・対人距離の保持（必要時以外の外出は避けましょう。）
- ・手洗い・うがい（外出や人と接触した後はすぐに手洗い・うがいをしましょう。手洗いは指先、指の間～手首まで念入りに洗いましょう。）
- ・咳エチケット（マスクを着用しましょう。不織布のマスクが効果的です。）
- ・栄養・睡眠を十分にとること（バランスのとれた食事と十分な睡眠で基礎体力をつけましょう。）

（専門職 阿佐 慎治）

旬の珍味～じゅんさい～

〈じゅんさいの旬〉

生のじゅんさいは6月から8月にかけて出回ります。古事記では初夏の季語になっています。湖沼に小舟を浮かべてじゅんさいを採る風景は、初夏の風物詩になっています。

〈じゅんさいの特徴〉

日本では本州と北海道の限られた湖沼に自生する睡蓮科の植物です。

寒天状の膜に包まれた繊細な形で、プリプリする歯ごたえとぬめりを楽しむ高級食材です。じゅんさい料理は、お吸い物と酢の物が定番ですが、鍋料理や天ぷらなど幅広い料理で楽しむことができます。

〈じゅんさいの栄養〉

じゅんさいは、100gあたり5kcalという低エネルギーな自然食品。成分は98%が水分です。ほかにビタミンや食物繊維が豊富に含まれています。



第2回呉国際医療フォーラム(K-INT)のお知らせ

当センターにおきましては、昨年7月に第1回呉国際医療フォーラム（K-INT）を開催いたしました。これは、地域医療活性化、国際医療人育成を目的としており、地域医療を代表して、当センターのみならず呉共済病院、中国労災病院、広島大学病院から医師が参加しました。国際的には、シンガポール、タイ、インドネシアから講師を招いています。本年も第2回を予定しています。テーマとして昨年は、「アジアにおける血管外科（脳、心臓）」とし、今年は「アジアにおける周産期医療」を予定しています。本年も地域医療代表として中国労災病院、県立広島病院、広島大学病院から産科医や小児科医が参加予定であり、海外からは昨年より多く、シンガポール、タイ、インドネシア、マレーシアから医師、看護師を招いています。詳しくは、K-INT事務局へお問い合わせ下さい。

①日時：平成21年7月24日(金)～7月26日(日)



「メディカルフェスタ2009」並びに「第15回 国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター がん講演会」のお知らせ

昨年開催した病院展“メディカルフェスタ2009”を今年も下記日時で開催いたします。内視鏡や心電図を手にとって操作出来る、医師の体験コーナーや治療食の試食などさまざまなイベントを計画中です。メインイベントとして毎年市民の方を対象に開催しているがん講演会を逸見晴恵氏をお招きして行うことにいたしました。皆様のご来場をお待ちしています。

①日時：平成21年9月27日(日) 10：00～15：30

②会場：呉医療センター・中国がんセンター 1階ホール～体育館

がん講演会会場：管理棟4階 地域研修センター

講演会時間：14：00～15：30

講師：逸見 晴恵（フジテレビ元アナウンサーで1993年がんで亡くなった逸見政孝さんの夫人）

演題：がんに勝ち抜くために家族に出来ること



「平成21年度末期医療患者のQOL推進事業講習会」のお知らせ

QOL推進事業講習会は医療従事者を対象とした講演会です。職種は問いませんので地域の医療従事者の方、多数聴講されますようお願いいたします。

①日時：平成21年10月10日(土)

②会場：呉医療センター・中国がんセンター 地域研修センター1・2（管理棟4階）

③講師：大西 秀樹（埼玉医科大学精神腫瘍科教授。がん患者の心のケアを専門とする）

④演題：緩和医療における心の問題とその対応



車椅子利用専用駐車場について

庶務班長 近 藤 享 繁

病院正面玄関前の車椅子利用専用駐車場4台のうち3台に、駐車装置を設置いたしました。

車椅子を利用されている方には、専用駐車場が空いていないことで、ご迷惑をおかけしていましたが、駐車装置の設置により不正駐車が防止できると考えております。

尚、利用方法は次のとおりです。

①車を赤ランプが点灯する位置まで前進させる。

②赤ランプ点灯後に、携帯電話から090-4699-3111（無料）にダイヤルする。

③バーが上昇するので駐車する。

④バックで出庫して下さい。出庫後30秒後にバーが自動で下降します。

ご面倒をおかけしますが、ご協力をお願いします。



編集後記

昨年度から開始したメディカルフェスタを今年も9月27日(日)に開催いたします。同日、例年市民会館で開催していたがん講演会を今年は逸見晴恵氏をお迎えし、14:00~当院4階の研修センターで行います。当日は1日中病院をお楽しみいただけるイベントを計画中です。多数のお越しをお待ちしています。(M.M)